歴史地震
第 23 号(2008) 156 頁

［講演要旨］元禄関東地震(1703)の神奈川県・静岡県内詳細震度分布

地震研究所　都司嘉宣・小野友也

Detailed Distribution of the 1703 Genroku Kanto Earthquake in the territories of Kanagawa and Shizuoka Prefectures

Yoshinobu Tsuji, and Tomoya Ono　ERI, Univ. Tokyo

§１ はじめに

元禄 16 年 11 月 23 日の未明に関東地方の南部を襲った元禄関東地震は、大正 12 年(1923)の関東地震と同じ相模トラフを起点とするプレート境界の滑りによって起きた海溝型の巨大地震であることが知られている。この地震による房総半島と江戸市中における詳細震度分布については、すでに筆者らによって解明されたが、今回は神奈川県・静岡県の領域での詳細震度分布を解明した。

§２　方向と結果

地震研究所(1982)発行の「新収・日本地震史料（第 2 巻別巻）は１冊全部が元禄地震の史料集であるが、そこに集められた各種の文献から、「要するに個々の地点で物理的に何が起きたのか」に注目して１枚の電子的カードを作成し、エクセル・ソフトで整理すると、約 350 枚のカードが作成され、そのうち約 260 件が地点ごとの震度推定データとして用いることができた。幕府の公的記録である『楽只堂年録』には、「三浦郡阿部飛騨守知行六ケ村」の被害数などが載っている。このような記録に対しては、平凡社の府県別地名辞典により、三浦郡のうち元禄 16 年時点で阿部氏が支配した村を確定することにより、現代地図上の地点を割り出した。このような作業によって得た、元禄関東地震(1703)による、神奈川県、静岡県の詳細震度分布図を掲げておく。

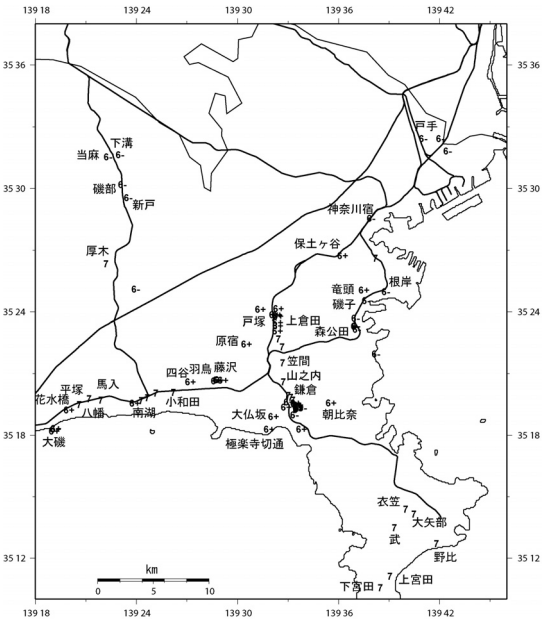

図１．元禄関東地震(1703)による神奈川県東部の詳細震度分布

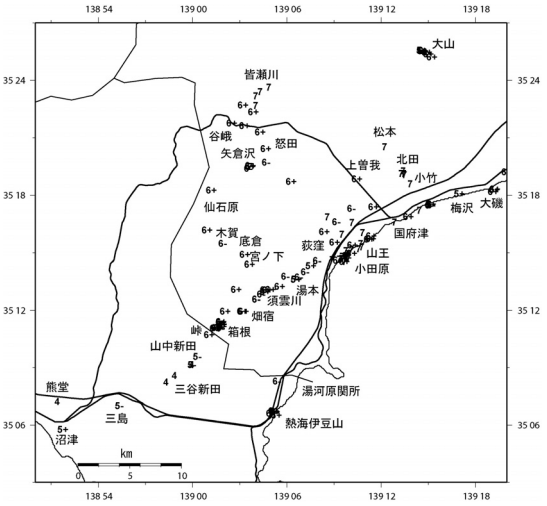

図２．元禄関東地震(1703)による神奈川県東部、および静岡県での詳細震度分布